日本中国語学会々報　2022年6月

https://ss1.xrea.com/www.chilin.jp/

◆目次◆

ご挨拶　.....1
支部例会実施報告　2022.1-2022.5.....2
会議報告　.....4
全国大会および例会、「中国語学セミナー」開催のお知らせ.....8
事務局からのお願いとお知らせ.....9

ご挨拶

竹越孝（日本中国語学会会長）

この 4 月から 2 年間、本学会の事務局を預かることになりました。副会長の丸尾誠先生（名古屋大学）や、幹事の大西博子（近畿大学）、西村英希（金沢大学）、濱田武志（神戸市外国語大学）三先生と協力しながら、まずは大過なき学会運営を心掛けたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ようやく終息の兆しが見えてきたようにも思えるコロナ禍ですが、もちろんまだパンデミック以前に復した状態とは言えません。富山大学に開催校としてご準備いただく今年度の第 72 回全国大会も、先日の理事会における審議を経て、オンライン形式で行われることが決定されました。この 2 年半、私たちの行動範囲が大幅に制限される中で、これまで当たり前と思っていた対面での学会活動がいかに貴重な情報交換とコミュニケーションの機会であったかを再認識する一方、様々な理由から現地に直接赴くことが困難な状況にある会員にとって、オンライン参加という手段が一つの大きな福音であることも確かでしょう。どのような方法が会員にとって望ましいのか、そのメリットとデメリットを見極めながら、今後の学会活動のあり方を探っていきたいと思います。

さて、本学会にとって今年は、『中国語学辞典』（岩波書店）が刊行される記念すべき年となります。2011 年の辞典編纂委員会設置から 11 年余りの時を経て、平田昌司委員長の献身とリーダーシップのもとで、ついに完成に漕ぎつけたものです。この辞典は本学会の前身である中国語学研究会の編として刊行された『中国語学新辞典』（光生館，1969 年）以来、約 50 年ぶりに学会の事業として取り組んだ辞典となりますが、その間の日本と世界における斯界の学問的進展を反映したものであることは言を俟ちません。項目の執筆や校閲にご協力いただいた会員の皆様に深甚の感謝を申し上げるとともに、今後中国語学と関係諸学の学生や研究者に、この辞典が広く活用されることを願います。

正直言いますと、私自身はこれまで全国規模の学会よりは少人数で行われる研究会や読書会の方を大事にしてきました。狭いテーマ

を気心の知れた仲間とともに追求する研究会・読書会と、さまざまな分野を包摂し全国から人が集まる学会では、研究発表のスタイルや成果公表の媒体が自ずと異なり、それぞれに利点と欠点があることは言うまでもありません。双方の良さを生かす形で学問の底上げに寄与するのが理想であり、縁あってこの立場にある以上は、学会の側としていかにそのプラットフォームを整備し、次世代に繋いでいくかを考えていきたいと思います。

リーダーシップというものを全く持ち合わせておらず、人の上に立つことが何よりも苦手な私ですが、聞く耳は持っているつもりです。より良い本学会の活動に関するアイディアや提言があれば、遠慮なくお寄せ下さいますようお願い申し上げます。

［2022 年 6 月 20 日記］

支部例会実施報告　2022.1-2022.5

◆北海道支部例会

◇第 1 回：2022 年 3 月 5 日（土）午後 1 時～
オンライン（Zoom）による開催

・劉伝霞（山口大学・研究員）：基于 BCC 语料库中“D 群”感动词类的句法关系探究

本文以“进行真伪判断确定”这一认知过程的 D 群感动词类“｛嗯｝”（“嗯”，“嗯嗯”，“嗯呢”等），“｛对｝”（“对”，“对对”，“对滴”等），“｛是｝”（“是”，“是是是”，“是啊”等）为研究对象，通过对 BCC 语料库（北京语言大学现代汉语语料库（BLCU Corpus Center））的分析，提出了以下结论：1）在汉语会话中，D 群感动词类“｛嗯｝”，“｛对｝”，“｛是｝”之间，存在“｛嗯｝→｛对｝→｛是｝”这样的句法关系。2）在汉语会话中，D 群感动词类的单独形，反复形，接续形之间，存在“单独形→反复形→接续形”这样的句法关系。

・曲明（室蘭工業大学）：Hyflex 形式中国語授業の実施及びその授業評価

コロナウイルス感染症対策のため、室蘭工業大学では、2021 年に中国語の授業を Hyflex 形式（半分遠隔＋半分対面）で実施した。本稿では学習支援システム（Moodle），遠隔会議システム（Zoom）を組み合わせた Hyflex 形式の授業の実施方法および学生アンケートによる授業評価について述べる。

・中村真衣佳（北海道大学・院）：時間認識との関わりから見た願望の助動詞「想」と「要」の意味的差異

本発表は、願望を表す助動詞「想」「要」の意味的差異について、①参照点（Langacker1993），②時間認識の観点から説明することを目的としている。輿水・島田（2012）によると、「想」と「要」は「～たい」に相当するが、願望を表す語気の強弱に差がある。また、彭（2007）は「要」に関して、「意願（意志と願望）」を表すと述べている。つまり、「想」「要」の意味的差異は発話状況に依存すると考えられる。以下、本発表の主な主張である。（1）「要」は話者が現実世界の過去の出来事を参照点として願望の対象を発話時点から近い未来に位置づけて認識している。（2）「想」は非現実世界の話者の知識を参照点として願望

の対象を「要」よりも遠い未来に位置付けて認識している。

・山田大輔（北海道大学・専門研究員）：上古・中古漢訳における否定疑問文の機能について

古代漢語（上古、中古）の否定詞（不、非、無）を含む疑問文には、否定詞が否定を表しているものと否定を表していないものがある。本発表は、前者の機能については、発話者（否定疑問文の発し手）が、自身が事前にもっていた想定とは正反対の状況に遭遇した時に、その状況の真偽を問う疑問文であると考える。一方、後者の機能については、発話者が、自身が事前にもっていた想定と同じ想定を聞き手に想起、認識させるものである、すなわち記憶・認識喚起であると考える。また、前者と後者の間には派生関係があるのではないかという見方を提示する。

◆関東支部例会

◇第 2 回 : 2022 年 3 月 26 日（土）午後 1 時～
オンライン（Zoom）による開催

・姚伟嘉（同济大学）：《国际中文教育中文水平等级标准》词汇语义透明度考察及对日教学思考

2021 年 7 月 1 日,《国际中文教育中文水平等级标准》（GF0025-2021）（以下简称《标准》）正式实施。《标准》将学习者中文水平分为“三等九级”，并以音节、汉字、词汇、语法四种语言基本要素构成“四维基准”。与《新汉语水平考试大纲》相比，《标准》各级词汇数有明显增加。这必然为学习者与教学者带来更大负担。但《标准》的分级词汇表与汉字表联系紧密，通过对《标准》各级词汇“语义透明度”的考察发现：通过叠加语素义（字义）有 64%以上的词是能推测词义的，等级越高，语义透明度高的词占比越大。对日本学习者而言，教师应利用学生的汉字认知能力，有意识地采用“语素教学法”，培养学生的猜词能力，从而减轻词汇记忆负担。

・荒木典子（東京都立大学）：『金瓶梅詞話』における「茶を淹れる」動作

『金瓶梅詞話』の「茶を淹れる」動作（茶葉の味と香りのついた液体を作る）を表す動詞には、“點”を筆頭に複数の種類が存在する。劉学忠(2002)はその理由を、本書に「宋人茶」と「明人茶」の特徴が混在しているためだとする。これらが皆、字義通りの動作を表すならば、淹れ方の違いに応じて使い分けがなされていると言えるが、作品内での分布や語法的ふるまいに偏りが生じる原因は、むしろ本書の成立事情にある。本発表では主に“點”、“頓”の用例について、表される動作が抽象的な「活動」なのか具体的な「事件」なのか（沈家煊(1995)、石毓智(2004)）、共起する語法成分を参考に検討し、本書に見える語彙の歴史的変化の過程を明らかにする。

会議報告

■編集委員会

◆第 1 回編集委員会（『中国語学』269 号）

日時：2022 年 3 月 18 日（金）（Zoom によるオンライン開催）

出席者：千葉謙悟（委員長）、飯田真紀、伊藤さとみ、森宏子、中西裕樹、張佩茹、宮本徹、李佳樑（以上委員）

【議事】

1. 『中国語学』第 269 号の投稿論文について

・投稿総数 22 篇。審査の結果 21 篇を受理した。分野別内訳は音韻 2、方言 4、現代文法 13、歴史文法 2 である。各篇について査読者 3 名を決定した。査読報告書の提出期限を 5 月 6 日（金）とし、5 月 14 日（土）の第 2 回編集委員会において採否の決定を行うこととした。

2. 『中国語学』第 269 号の特集論文について

・昨年度の大会講演をご担当いただいた佐藤進会員（東京都立大学名誉教授）と木津祐子会員（京都大学）に寄稿を依頼することとした。

3. 2022 年度学会奨励賞の候補者について

・『中国語学』第 268 号に掲載された論文の執筆者の中から 1 名を選出し、5 月 14 日（土）の第 2 回編集委員会において候補者を決定することとした。

◆第 2 回編集委員会（『中国語学』269 号）

日時：2022 年 5 月 14 日（土）13 時～16 時（Zoom によるオンライン開催）

出席者：千葉謙悟（委員長）、飯田真紀、伊藤さとみ、森宏子、中西裕樹、張佩茹、宮本徹、李佳樑（以上委員）

【議事】

1. 『中国語学』第 269 号投稿論文の採否について

・受理した 21 篇の投稿論文を査読結果に基づいて審議した結果、1 篇を採用、6 篇を要二次審査、14 篇を不採用とした。要二次審査の 6 篇については、6 月 30 日（木）必着で修正論文の提出を求め、編集委員会において二次審査を行った上で、掲載の可否を最終決定することとした。

2. 2022 年度学会奨励賞の候補者について

・第 1 回編集委員会で選出した 1 名の執筆者について審議を行い、最終的な結論に達した。

■大会運営委員会

◆メール審議（2022 年 2 月 16 日～3 月 30 日）

出席者：前田真砂美（委員長）、浦山あゆみ、王周明、奥村佳代子、島村典子、橋本永貢子、濱田武志、福田翔、吉川雅之、盧建（以上委員）

【議事】

1. 研究発表応募書類等の確認

・第 72 回大会の研究発表およびワークショップの公募に先立ち、ウェブサイトに掲載する各種応募書類の修正・確認を行った。

◆メール審議（2022 年 4 月 7 日～17 日）

出席者：前田真砂美（委員長）、浦山あゆみ、王周明、奥村佳代子、佐々木勲人、島村典子、橋本永貢子、濱田武志、福田翔、盧建（以上委員）

【議事】

1. 発表辞退、予稿集原稿提出遅延等に対する罰則について

・「ワークショップ応募規定」と「研究発表応募規定」とで内容が異なること、および、現行の規定の妥当性について議論を行なった。具体的な改定案については、今後引き続き議論

していくこととした。

■辞典編纂委員会

◆2021 年度第 3 回辞典編纂委員会

日時：2022 年 2 月 3 日～7 日（メール審議）

出席者：平田昌司（委員長）、大西克也、小野秀樹、木津祐子、朱春躍、竹越孝、三宅登之、山崎直樹、楊凱栄（以上委員）

【議事】

1. 編纂協力者について

・編纂協力者の名簿を確認した。

2. 中国語学辞典寄付金による学会からの寄贈先について

・中国語学辞典寄付金（300 万円）による学会からの寄贈先について、以下のとおり方針案を作成した：

委員・編纂協力者・執筆者すべて一律に、１会員１冊、学会寄付金を用いて、学会名で献本することを 2022 年 5 月理事会に提案する。原稿提出後に退会されている方にも寄贈する。逝去された会員で、ご遺族連絡先が判明する場合は、ご遺族あてに寄贈する。

◆2021 年度第 4 回辞典編纂委員会

日時：2022 年 3 月 22 日（火）18：00～18：30（Zoom によるオンライン開催、ホスト三宅登之会員）

出席者：平田昌司（委員長）、大西克也、小野秀樹、木津祐子、朱春躍、竹越孝、三宅登之、山崎直樹、楊凱栄（以上委員）

【議事】

1. 委員長不在期間の対応について

・平田委員長が海外滞在のため不在となる期間の岩波書店編集部との連絡、および 5 月理事会対応については、三宅登之委員が代理となることを了解した。

2. 辞典編纂委員会の解散日について

・辞典発行日（未定）付けで辞典編纂委員会を解散するむね、5 月理事会に提案することとした。

■学界展望編集委員会

1. 2021 年「学界展望　語学」の編集

・2022 年 3 月 1 日に学界展望編集委員会委員に執筆依頼を送付し、5 月 15 日をめどに初稿を取りまとめることとなった。なお、文字数は例年通り 15,000 字である。

・今次の学界展望は、ともに 2022 年 10 月発行予定の『日本中国学会報』第七十四集に掲載され、『中国語学』第 269 号に転載される予定である。

2. 2019 年・2020 年「学界展望 語学」の中国語版

・中国社会科学院文学研究所により今年度は 2019 年・2020 年の「学界展望 語学」中国語版が作成される。2020 年分についてはすでに中国語版を点検済みである。

■2022 年度第 1 回理事会

日時：2022 年 5 月 15 日（日）14 時～16 時（Zoom によるオンライン開催）

出席者：竹越孝（会長）；丸尾誠（副会長）；秋谷裕幸、遠藤雅裕、佐々木勲人、古川裕、三宅登之、吉川雅之（以上理事）；千葉謙悟（編集委員長）；前田真砂美（大会運営委員長）；三宅登之（辞典編纂委員長代理[兼任]）；鈴木慎吾（ウェブリソース委員長）；秋谷裕幸（学界展望編集委員長[兼任]）；大西博子、西村英希、濱田武志（以上幹事）

欠席者：平田昌司（辞典編纂委員長）

【報告事項】

1. 一般報告

1.1 役員・委員等の異動

・評議員交代

関東支部：平井和之（日本大学）

→　田村新（大東文化大学）

・会計監査

澤田達也（京都産業大学）

中田聡美（大阪大学）

1.2 会員動向（2022 年 4 月 1 日現在）

・会員数　4 月 1 日現在　（増減は 2021 年 10 月 1 日を基準とする）

			4/1 現在	増減
総会員数（賛助会員をのぞく）			930 名	－59
	（内訳）	顧問	6 名	＋1
		名誉会員	13 名	＋1
		通常会員	848 名	－58
		団体会員	5 名	±0
		海外会員	58 名	－3
賛助会員			19 社	±0

〔昨年度除籍者〕　42 名（国内会員　35 名 / 海外会員　7 名）

ご逝去　1 名（笹倉岳臣会員）

2. 支部例会関連

・支部例会世話人交代

関西・四国支部：大岩本幸次（大阪市立大）

→　田中智子（神戸山手大）

・今年度の例会開催予定

北海道　（山田敦士会員）：1 回

関　東　（張　盛開会員）：2 回

北　陸　（加納希美会員）：1 回

東　海　（張　　勤会員）：1 回

関西・四国（田中智子会員）：2 回

中　国　（荒見泰史会員）：未回答

九　州　（木村裕章会員）：2 回

3. 大会運営委員会報告

前田委員長より次の報告があった。

（1）委員の退任・交代について

・退任：戸内俊介会員（2021 年 12 月 1 日付。2021 年度開催校）

※2022 年度大会開催校代表（福田翔会員）は現任委員のため兼任。

・退任：吉川雅之理事、就任：佐々木勲人理事（2022 年 4 月 1 日付）

（2）第 71 回大会で見られた問題について

・オンライン開催に関わるものとそれ以外とに分けて問題点を整理し、対応策を検討した。

（3）第 72 回大会の準備状況について

1）日程・開催校・代表

2022 年 11 月 5・6 日（土・日）、富山大学、福田翔会員

2）招待講演

古川裕会員（大阪大学）

望月圭子会員（東京外国語大学）

3）各種応募規定

・対面開催とオンライン開催、両方の可能性を想定して文言を変更した。

・全国大会が仮に対面開催とされた場合における、ワークショップの実施方法・規定について、委員会内の検討結果をまとめた。

4）各種応募期間

ワークショップ：5 月 17 日～5 月 31 日

研究発表：6 月 16 日～6 月 30 日

5）予稿集原稿提出期間

9 月下旬を予定。

4. 編集委員会報告

千葉委員長より次の報告があった。

（1）『中国語学』第 269 号の投稿論文の採否について

・受理した 21 篇の投稿論文を査読結果に基づいて採否の判定を行い、1 篇を採用、6 篇を要二次審査、14 篇を不採用とした。

（2）『中国語学』第 269 号の特集論文について

・昨年度の大会講演をご担当いただいた佐藤進会員（東京都立大学名誉教授)、木津祐子会員（京都大学）に寄稿を依頼した。また、収録予定の論文について担当者を決定した。

（3）2022 年度学会奨励賞の候補者について

・第 2 回編集委員会において候補者について審議し、最終的な結論に達した。

5. 辞典編纂委員会報告

三宅委員長代理より次の報告があった。

（1）2021 年度第 3 回・第 4 回辞典編纂委員会における審議について

・2021 年度第 3 回・第 4 回辞典編纂委員会において、「会議報告」に記した通りに審議事項が可決された旨が報告された。

（2）『中国語学辞典』の概要について

・『中国語学辞典』が 2022 年 10 月刊行予定である旨、ならびに、同辞典の頁数の内訳等について報告された。

6. 学界展望編集委員会報告

秋谷委員長より次の報告があった。

（1）2021 年「学界展望　語学」の編集

・学界展望編集委員会委員に執筆を依頼した。

（2）2019 年・2020 年「学界展望　語学」中国語版

・今年度は 2019 年・2020 年「学界展望　語学」の中国語版が刊行される予定である。

7. 中国語学セミナーについて

遠藤理事（中国語学セミナーワーキンググループ座長）より、ワーキンググループ内での議論状況が報告され、出席者間で意見交換が行われた。

8. 除籍候補者と住所不明者について

竹越会長より、除籍候補者と住所不明者の今年度の状況について報告が行われた。併せて、住所不明者に関する情報提供が呼びかけられた。

【審議事項】

1. 第72回全国大会について

・第72回全国大会を全面オンライン形式での実施とする旨が提案され、審議の結果、承認された。

・ポスターセッションの実施形態について、オンライン会議ツール「oVice」を使用することが承認された。

2. 学会奨励賞の授賞について

・編集委員会による最終的な結論が承認された。

3. 「人を対象とした研究」に対応した『中国語学』投稿規定の改正について

・人を対象とする実験・調査・研究等に関する研究倫理上の問題が投稿論文において発生することを回避するため、『中国語学』投稿規定第 3 項の変更、ならびに第 6 項の新設が提案され、審議の結果、承認された。

4. 『中国語学辞典』について

・学会寄付金による『中国語学辞典』計187冊の寄贈が提案され、併せて、寄贈先候補の個人・機関の一覧、および寄贈費用の試算額が提示された。審議の結果、原案通り承認された。

・『中国語学辞典』の発行日付けで辞典編纂委員会を解散する旨、ならびに、辞典発行日以降の問い合わせ等の対応は学会が主体となって行う旨が提案され、審議の結果、承認された。併せて、最終的な出版契約の主体が学会となることも承認された。

5. 顧問・名誉会員の推挙について

・太田斎会員、岩田礼会員を顧問に推挙することが承認された。また、ニューズレターに名誉会員の推挙依頼を掲載することとした。

全国大会および例会、「中国語学セミナー」開催のお知らせ

第 72 回全国大会開催のお知らせ

すでに学会ウェブサイトでご案内しておりますとおり、今年度の大会は富山大学を本部として 11 月 5 日（土）～11 月 6 日（日）にオンラインで開催されます。ふるってご参加下さいますようお願い申し上げます。本年度の発表申し込み期間は、6 月 16 日（木）より 6 月 30 日（木）日本時間 24 時までです。採択者一覧、大会プログラムは 7 月末以降に学会ウェブサイト上に順次アップする予定です。なお、予稿集は第 70 回より電子版のみの刊行となっております。詳細は学会ウェブサイト等をご参照ください。

（事務局）

今年度の例会実施予定

各支部の例会実施予定は次のようになっています。原則としてオンライン形式で実施します。

北海道支部：1 回（9 月または 2023 年 3 月）
関東支部：2 回（9 月、2023 年 3 月）
北陸支部：1 回（2023 年 3 月）
東海支部：1 回（7 月）
関西・四国支部：2 回（6 月 4 日、12 月）
中国支部：未定
九州支部：2 回（7 月 9 日、12 月）

発表者、参会者ともに歓迎します。ただし、開催時期および回数は変更になることもありますのでご了承ください。開催予定、申込締め切り、連絡方法などにつきましては学会ウェブサイトでご確認ください。発表者の方には発表要旨（300 字以内）の事前提出をお願いしています。この要旨は学会ウェブサイト上の例会案内のページで紹介され、支部例会の活動記録として保存されます。開催に関する詳細については、各支部の例会世話人までお問い合わせください。

（事務局）

第 4 回「中国語学セミナー」開催

第 4 回「中国語学セミナー」を開催いたします。開催日は 2022 年 9 月 10 日（土）、講師はクリスティン・ラマール会員（Institut national des langues et civilisations orientales）、秋谷裕幸会員（愛媛大学）を予定しています。開催形態は Zoom によるオンライン開催です。講義題目、受講申込み方法等については、詳細が決まり次第、学会ウェブサイト等でお知らせします（7 月中旬頃に掲示する予定です）。

なお、聴講は事前登録制となっており、参加費（会員￥1,000／非会員￥2,000）は事前に PayPal のオンライン決済にてお支払いいただく形式を予定しております。Zoom 管理の都合上、聴講は先着 100 名様とさせていただきます。本セミナーは開催日の生配信のみで、オンデマンド配信は行いません。

（事務局）

事務局からのお願いとお知らせ

■ 名誉会員の推挙について

名誉会員の推挙は、9 月 30 日までに推薦文を添えて、事務局宛にメール送付をお願いします。なお、名誉会員称号授与の条件は、年齢満 70 歳以上で継続して 20 年以上本会会員であった方のうち、本会の発展に功労のあった方となっており、理事会、評議会の審議を経た上で会員総会において決定されます。

■ 住所不明の会員

事務局より送付した郵便物が返送されてきた会員のお名前を掲げておきます。もし御自身のお名前を見つけられましたら、速やかに e-naf から住所変更の手続きを行なってください。またお知り合いの方のお名前がありましたら、事務局までご連絡をお願いします。

荒屋勸、郭頴侠、金子真生、続三義、石汝傑、鄭亨奎、原由起子、楊達、楊立明、小松紘一郎、陳瑩、李鵬、鄭琼花、東孝拓、楊纓、李偉、王姝茵、金立鑫、鄧宇陽、陳玥、郭楊、胡良娜、東方裕仁、劉妍、恵詩文、李宛、張茜、布目孝子、劉温雯、孫婧、王天予、李日臻、楊雯斕、王巍、賈皓煬、杜天邑、董微雨、尚堃、趙暁熠、周依漪、楊洋、王仁靖、王瀟玄、呂佳駿、賈柱、張超、李怡寧、王卓、李哲、胡亜敏、呉琪、大久保蛍

■ 2022 年度会費納入のお願い

先にお送りした請求のご案内の通り、本年度会費（一般会員6,000円）を8月31日まで（研究発表応募者は6月30日まで）に、最寄りの郵便局からお振込下さい。

郵便振替　　加入者名：日本中国語学会
　　口座番号：00980-6-282216

『中国語学』バックナンバーなどに記載されている旧口座には振り込まないようお願いします。なお、これまでの会費が未納の方は請求のご案内に記載していますので、一括してご入金下さい。記載請求金額が15,000円以上の場合は、今年度ご入金いただけませんと、《会費納入に関る内規》により除籍となりますのでご注意下さい。

■ 会員情報更新のお願い

今年度は、会員名簿作成の年にあたります。この機会に、ぜひ会員データ管理システム e-naf にアクセスして、御自身の会員情報の、特に御所属と身分につきまして、**2022 年 8 月 31 日（水）までに**、確認と更新をお願いいたします。職名については、該当する職名を選択してください。国内会員の場合、教授／准教授／助教／非常勤／院生／研修員の中から選択してください。また名誉教授／専任講師／（客員）

教授は、そのまま記載してください。大学院研究生／科目等履修生などは「院生」に、(R)PD／(学振) 研究員などは「研修員」に含みます。それ以外の場合は、上掲の選択肢の中から一番近いカテゴリーを選択してください。

海外会員の場合、教授／副教授／助教／講師／博士生／進修生の中から選択してください。また「助理教授」は「教授」と混乱する恐れがあるため、「助教」と略記してください。「碩士生／博士生」は区別せず「博士生」と表記してください。

具体的な凡例については、e-naf の会員登録情報のページを御覧ください。なおこの凡例は事務処理を目的としたものですので、今後も実情に応じて改訂することがあります。

■ 退会について

退会は会費納付が前提となっています。退会ご希望の方は必ず会費納付後の年度内にお申し出下さい。

■ 予稿集の販売

過去の大会予稿集は、第69回以前のものは好文出版にて1,500円でお求めになれます。第70回以降の大会予稿集は電子版のみの発行（非売品）です。詳しくは学会ウェブサイトをご覧下さい。在庫につきましては好文出版（order@kohbun.co.jp）に直接お問い合わせ下さい。

■ 事務局の連絡先（2024 年 3 月まで）

事務局への送付先は以下の通りです：

〒651-2187　神戸市西区学園東町 9-1
神戸市外国語大学中国学科内
日本中国語学会事務局宛

ただし、コロナ禍の関係で、受け取りに時間がかかりますので、郵便物の送付はできるだけお控えいただき、急ぐ用件や返信を要する用件は事務局のアドレスにメールでご連絡をくださいますようお願いいたします。

また各種のお問い合わせは、学会ウェブサイト（https://ss1.xrea.com/www.chilin.jp/）内の「お問い合わせ」ページをご利用ください。

日本中国語学会々報 2022 年春季
（年二回発行）
発行者：日本中国語学会事務局
〒651-2187　神戸市西区学園東町 9-1
神戸市外国語大学中国学科内
E-mail: jimukyok_clsj@chilin.jp
URL: https://ss1.xrea.com/www.chilin.jp/
発行日：2022 年 6 月 30 日